



2023年5月12日

各位

会社名 株式会社コロワイド
代表者名 代表取締役社長 野尻公平
(コード番号 7616 東証プライム市場)
問合せ先 経営企画部長 米村昌晃
(TEL 045-274-5970)

**その他の営業収益(固定資産売却益)、その他の営業費用(減損損失)の計上、
及び通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ**

2023年3月期第4四半期連結会計期間におきまして、下記の通りその他の営業収益(固定資産売却益)及びその他の営業費用(減損損失)を計上するとともに、2022年11月8日に公表致しました通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、お知らせ致します。

記

1. その他の営業収益(固定資産売却益)の計上

当第4四半期連結会計期間におきまして、固定資産売却益5億85百万円を計上致しました。

これは主に、当社の連結子会社である(株)アトム(本社所在地:横浜市、代表取締役社長:山角 豪、事業内容:飲食店の運営、資本金:1億円)にて保有しておりました福島県郡山市の土地の売却によるものであります。

2. その他の営業費用(減損損失)の計上

2024年3月期以降の抜本的な収益改善に向け、当連結会計年度末において、追加的に64億86百万円の減損損失を計上致しました。

過去数年に亘り店舗等の固定資産に対する減損損失を計上して参りましたが、コロナ禍が沈静化した後の市場環境に対する見通しが、より明瞭になりつつあることを踏まえ、将来的にリスクが生じる恐れがあるものを含め今回処理を行いました。これには事業ポートフォリオの見直し等による、2024年3月期の閉店予定37店舗分も含んでおります。

加えて、当社の連結子会社である(株)レイズインターナショナルにおいて、コロナ禍からの業績回復状況を踏まえ将来的な計画を見直した結果、同社の居酒屋業態に係るのれんに対し7億90百万円の減損損失を計上しております。

これにより2024年3月期の事業利益に対しては、減価償却費の減少及び閉店に伴う赤字額削減等により、28億円の利益押し上げ効果が期待出来ます。

3. 通期連結業績予想数値と実績との差異

(1) 2023年3月期通期連結業績予想数値と実績との差異 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上収益	事業利益	EBITDA	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	231,373	4,860	13,129	1,640	271	△2.86
実績値 (B)	220,830	△196	7,400	△8,579	△6,801	△84.45
増減額 (B-A)	△10,543	△5,056	△5,729	△10,219	△7,072	△81.59
増減率 (%)	△4.6	-	△43.6	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	175,627	6,133	14,416	3,068	1,437	11.31

(注1) 事業利益 = 「売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費」により計算しております。

(注2) EBITDA = 「事業利益 + 減価償却費及び償却費 (使用権資産の減価償却費を除く)」により計算しております。

(2) 差異の理由

予想数値を公表した時点におきましては、売上収益は回復傾向にあるとともに、政府の総合経済対策やインバウンド等による経済回復が期待されたことから、更なる売上収益の増加を想定しておりました。また、継続的に取組んで参りました固定費の削減、限界利益率の引き上げに加えて、客単価向上の施策を行うことによる利益創出を計画致しました。

しかしながら、冬場にかけての新型コロナウイルス「第8波」の影響により、客数が一段下落し2月まで停滞傾向となったことで、売上収益及び利益面に対して厳しい局面が続きました。

このため当連結会計年度の連結業績につきましては、売上収益が2,208億30百万円、事業損失が1億96百万円、EBITDAが74億円と計画を下回る結果となっております。また一過性の費用として減損損失を通期で70億61百万円計上したことにより、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益につきましても計画を下回りました。

尚、2023年3月単月と致しましては、売上収益が201億85百万円、事業利益が9億2百万円と着実に回復をしております。

以上